

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立諸富中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上については、校内研修部を主体とした全職員による取組を実施した。生徒の学習へ向かう態度や学習状況調査結果等に成果が表れつつある。今年度の課題を踏まえながら来年度も取組を継続したい。 ・学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進する。 ・教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員との密な連携を図ったことで、不登校生徒数が昨年度より減少するなどの成果を得ることができた。引き続き来年度も重点目標として取り組みたい。
2 学校教育目標	夢をもち たくましく 挑戦する 生徒の育成 創り、つなぐ ～ 夢 絆 伝統 ～
3 本年度の重点目標	①地域とともにある学校づくり（コミュニティースクールによる学校・家庭・地域との連携・協働） ②生徒の主体的・対話的で深い学びの実現（確かな学力を身に付けさせるための授業改善） ③生徒指導、特別支援教育の充実（いじめや不登校の未然防止のための組織体制の整備）

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりと、望ましい学習習慣を育む学習基盤づくり	○話し合う活動や書く活動を「積極的に取り組んだ」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	・週4回、朝の時間に、「eライブラリ」を活用した取り組みを行う。 ・生徒用一人一台端末の活用、「授業づくりのステップ1・2・3」を生かした授業実践を行う。	B	・話し合う活動や書く活動を「積極的に取り組んだ」について肯定的な回答をした生徒の割合は81%であった。 ・週4回、朝の時間に、「eライブラリ」を活用した取り組みを行うことに関しては、難易度問題が選択できる。間違えた内容を重点的に復習できるなど有用性を感じる生徒が増加した。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業を通じて、心豊かに成長できている」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	・生徒が人権や命の大切さを認識するために、全職員による道徳授業や人権集会などを実施する。 ・学習の成果を共有する場として、文化発表会にて学年ごとの「生き方」体験学習を行う。	A	・「道徳の授業を通じて、自分の考えが深まったり新しい発見があったりといった成長ができている」について、87%以上の生徒が肯定的な回答をしている。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止基本方針」に基づいて、対策に取り組んでいる」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・生活アンケートや定期教育相談を活用し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努める。	A	・「いじめ防止基本方針」に基づいて、対策に取り組んでいる」について肯定的な回答をした教師の割合100%であった。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリア教育の一環として「職場体験」や「職業人に学ぶ」「先輩(高校生)に学ぶ」を実施し、高校で活躍する卒業生や夢をもって人生を切り拓いている社会人から学ぶ機会をつくる。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒68%だった。学年別の内訳は、3年生(87%)、2年生(59%)、1年生(59%)であった。2年生、1年生における改善が必要である。
●健康・体づくり	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ⑦「安全に関する資質・能力の育成」	⑥健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようにして肯定的に答えた生徒の割合80%以上 ⑦児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・家庭科、学級活動、総合的な学習の時間等を通して、望ましい食習慣の定着を図る。 ・毎日の登下校指導や、交通安全教室での講演や実技を通して、安全に対する意識を高めさせる。	B	・「健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようにしている」について肯定的に答えた生徒は、80%であったが、苦手な料理を残す生徒も多く実践につながっていない。
	○体育活動や部活動を通して、体力の向上を図る。	○「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・生徒の心身の発達段階を考慮した体育活動や部活動指導の効率化を図りながら、効果的な部活動の運営を行う。	B	・「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合は72%であった。 ・生徒の心身の発達段階を考慮した体育活動や部活動を行っている肯定的に答えた教職員の割合95%であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・衛生・健康管理委員会を複数回開催し、業務効率化の具体的方策及び職員のタイムマネジメント意識向上の進捗状況等について話し合う。 ・校務分掌間等の連携や情報の共有を図り、業務効率化の取組を組織で実践する。	A	・「学校評価アンケートの質問「校務分掌等での他の教師との連携や情報の共有を図るなど、業務効率化に取り組んでいる。退勤時間の目安を意識するなど、時間外勤務時間の削減を心がけている」に対して肯定的な回答をした職員は、95%であった。 ・今後は、会議資料のペーパーレス化の徹底や時間割の改善等の取り組みを通して、生徒とふれあう時間の更なる増加を行う。
●特別支援教育の充実	○全職員で対応する体制づくりと支援を要する生徒の指導や支援の方法の共有化	○「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・支援を要する生徒の把握や理解について、生徒指導協議会や特別支援教育部会を活用した情報交換を確実に行う。	A	○「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」について肯定的な回答をした教師の割合は100%以上であった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
○機能する生徒指導体制の充実	○生徒指導部を中心とした提案や連絡体制による組織で動く生徒指導体制の確立	○「生徒の話に耳を傾け、学年や周りの職員と連携して、生徒の心配事に対応しようとして努力している」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・生徒指導部会会の運営を充実させることで情報を共有する。 ・職員研修等で職員のスキルアップを図り、問題行動の早期対応、未然防止に努める。	A	・「生徒の話に耳を傾け、学年や周りの職員と連携して、生徒の心配事に対応しようとして努力している」について肯定的な回答をした教師の割合は、100%であった。 ・いじめ防止や自死予防に関する職員研修を2回実施した。
○教育相談の充実	○生徒の変化の早期発見と全職員で対応する支援体制づくり	○「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれる」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・生徒の変化を早期に発見するために、毎月行うアンケート「自分と話そう」や定期教育相談を有効に活用する。 ・GR等を活用し、学年を超えた教師間の情報共有や、SCやSSW、サポート相談員との連携を確実に行う。	B	・「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれる」について肯定的に答えた生徒の割合86%だった。 ・生徒支援・指導のあり方やその情報共有に関して肯定的な回答をした教師の割合が53%であった。
○地域と共にある学校づくりの推進	◎コミュニティースクールによる学校・家庭・地域の連携・協働の推進	◎「地域の方々とふれあう活動を積極的にしている」について肯定的に答えた生徒、保護者の割合80%以上	・生徒の地域行事へのボランティア参加の促進。 ・「職場体験」「職業人に学ぶ」「夢づくり講演会」等、地域・保護者と連携した教育活動の更なる充実。	B	◎「地域の方々とふれあう活動を積極的にしている」について肯定的に答えた生徒の割合は、51%であり、保護者の割合は51%であった。 ・生徒の地域行事等へのボランティア参加は例年より多かった。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育					
5 総合評価・ 次年度への展望	・学力の向上については、授業スタイルの共通化やICT機器の利活用等を中心に取り組んだ。生徒の学習へ向かう態度に成果が表れつつある。今年度の課題を踏まえながら来年度も取組を継続したい。 ・学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進する。 ・教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員との密な連携を図ったことで、不登校生徒数が昨年度より減少するなどの成果を得ることができた。引き続き来年度も重点目標として取り組むたい。 ・不登校生徒への対応では、数値的に若干の改善が見られた。外部機関とも連携して卒業後の進路実現にも力を注ぐことができた。次年度も引き続き不登校対策に力を入れて取り組むたい。 ・「地域とのふれ合いが希薄である」という意見が、生徒・保護者から少なからず出ている。今後、学校教育は勿論の事、公民館活動も保護者を含めた中高生との交流事業や中学生を取り込めるような活動を推進しなければならない。尚、土曜日・日曜日・祝祭日を使った中学生対象の講座、屋外活動(マルシェ、軽トラック市、販売の加勢、ウォーキング)は現在も協力いただいている。				